

社会科学学習指導案

学 級 2年 A組
場 所 2年A組教室
授業者 加曾利 道人

1 単元名 中国・四国地方 ～都市と農村の変化と人々の暮らし～

2 単元について

本単元は、地理的分野（2）日本の様々な地域の中のウ「日本の諸地域」において、全国を7つの地方に区分し、考察方法（オ）「人口や都市・村落を中核とした考察」の視点から単元構成されたものである。ここでは、中国・四国地方の人口の分布や動態、都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業と関連付け、過疎・過密問題の解決が地域の課題になっていることなどについて考えることを主なねらいとしている。なお、考察方法（ア）～（キ）については、以下の諸地域の学習でその特色をとらえさせていく。

| 地 方 | 考 察 方 法 | 授業の中で取り扱う主な地理的事象 |
|-------|---------------|--|
| 九 州 | (エ) 環境問題や環境保全 | カルデラ、シラス、さんごしょう、エネルギー革命、四大公害病、エコタウン等 |
| 中国・四国 | (オ) 人口や都市・村落 | 瀬戸内工業地域、平和記念都市、過密問題、過疎化、本州四国連絡橋、町おこし 等 |
| 近 畿 | (イ) 歴史的背景 | リアス海岸、阪神・淡路大震災、阪神工業地帯、伝統的工芸品、古都、世界遺産等 |
| 中 部 | (ウ) 産業 | 日本アルプス、中京工業地帯、地場産業、高原野菜、早場米、環日本海経済圏構想等 |
| 関 東 | (キ) 他地域との結び付き | 東京大都市圏、京浜工業地帯、近郊農業、輸送園芸農業、工業団地、成田国際空港等 |
| 東 北 | (カ) 生活・文化 | やませ、穀倉地帯、伝統産業、伝統工芸品、重要無形民俗文化財、各地の祭り等 |
| 北海道 | (ア) 自然環境 | 国立公園、アイヌの人々、北海道開拓史、酪農、混合農業、世界遺産（自然遺産）等 |

中国・四国地方は、中国山地や四国山地という地形的な影響から、日本海側・瀬戸内海沿岸・太平洋側でそれぞれ気候の特色に違いが見られる。また、人口に視点を当てると、古くから工業がさかんで、高速道路や新幹線、本州四国連絡橋等の交通網が整備された瀬戸内海沿岸に都市が点在し、そこに人口が集中している。人口の集中が見られる都市では、人やもの、情報の流れの中心として発達している反面、住宅不足や交通渋滞といった、いわゆる過密問題を抱えている。その一方で、南四国や山陰地方では、人口の減少と高齢化が進行し続けるという、過疎化が大きな課題となっている。こういった地域では、経済活動が衰退し、公共交通機関の整備が難しくなるなど、地域社会の維持が非常に困難となっている。しかし、こうした過疎地域の中には、様々な課題を克服しようと、観光開発に力を入れたり、新たな特産品の生産・販売に力を入れたりするなど、地域の特性をいかした町（村）おこしに取り組んでいるところも多い。そして、こうした過疎地域は全国に広がっており、その改善が日本の将来に向けての大きな課題となっている。

生徒たちはこれまでの学習において、単元「世界から見た日本の人口」の中で、過疎・過密問題の概要については学んでいる。本単元の学習では、そこで習得した知識をもとに、中国・四国地方には過疎地域が多く存在することに気付かせ、その理由を考察させることを通して、さまざまな視点から事象間の関連性を見出し、最終的にこの地域の特色を明らかにしていきたい。過疎の問題は今後の日本にとっては非常に重い課題であり、その解決策は決して容易には見つからない。しかし、自分たちの住む地域の特色と比較をしながらこの問題について考え、少しでも解決策を見出そうとする姿勢が大切であり、こうした姿勢が見られるような授業にしたいと考えている。

3 生徒の実態

(1) 学級の概要

男子14名、女子17名の計31名で構成されている。生徒は全体的に落ち着いた態度で授業にのぞんでおり、積極的に自分の意見や考えを発言する生徒も多い。その一方で、指名されてもまったく発言できない生徒も数名いる。

学習面では、与えられた課題に対しては黙々と取り組むことができ、授業では興味のある社会事象について活発な意見が飛び交うなど、雰囲気がおおいに盛り上がることもある。その反面、自分から課題を見つけ、様々な方法で調べようとするのを苦手とする生徒も多い。また、発表活動では調査した内容をそのまま伝えることはできるが、その内容から自分が感じたことや考えたことを表現することを苦手としている。さらに、様々な資料をもとに事象を主体的に読み取ろうとしたり、社会事象を深く思考したりすることを避けようとする生徒も見られる。

(2) 事前調査より（アンケート実施；31名）

①社会科の学習は好きですか。

好き（8）、どちらかという好き（8）、どちらともいえない（7）、どちらかという嫌い（5）、嫌い（3）

②地理の学習は好きですか。

好き（6）、どちらかという好き（7）、どちらともいえない（6）、どちらかという嫌い（7）、嫌い（5）

③②の質問で「どちらかという嫌い」または「嫌い」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。（複数回答可）
地名などを覚えるのが大変だから（6）、何を勉強しているかわからない（5）、興味がないから（3）、白地図などの作業が苦手だから（1）、なんとなく（1）

④社会科の学習で、好きな学習活動は？（複数回答可）

コンピュータを使って学習する（13）、ビデオなどを見る（8）、課題についてグループで調べる（4）、調べた内容をさまざまな方法で発表する（4）、教師の話聞く（3）、白地図などの作業をする（2）

⑤社会科を学んでいて「楽しい」と感じるのはどんなときですか。

テストで良い点をとれたとき（11）、わからないことがわかったとき（8）、白地図などの作業をしているとき（4）、与えられた課題について資料集などで調べているとき（3）、教師の話聞いているとき（2）

社会科の学習について、「好き」あるいは「どちらかという好き」と答えた生徒が半数以上に達しているのに対して、地理の学習については「嫌い」「どちらかという嫌い」という生徒の割合が高い。その理由について考えられることのひとつが、地理的事象・語句をただひたすら「暗記」しなければならないという意識が強くはたらいっているということである。また、「何を勉強しているかわからない」と回答する生徒も多く、授業のねらいが生徒に明確に伝わっていないということが考えられる。

そこで、今回の授業では与えられた課題について自分たちで主体的に調べ、まとめた内容を他者にわかりやすく伝えるという一連の学習を通じて、学習に対する意欲の喚起と表現力の育成に努めていきたい。そして、社会事象を多面的・多角的にとらえさせることで思考力・判断力を高めるとともに、将来を担う社会の一員として主体的に社会参画しようとする姿勢を持たせたいと考える。また、「何を勉強しているかわからない」生徒に対しては、学習課題を明確にさせ、調査方法の視点や資料の見方を助言することで、学習する目的を持たせ、さらには自ら調べてわかることの達成感を味わわせたい。

4 単元の目標

[社会的事象への関心・意欲・態度]

- 中国・四国地方の自然環境や人口、産業などの特色について、地図や統計などの様々な資料を用いて、意欲的に課題追究しようとすることができる。
- 過疎・過密地域における問題点について調べ、その改善策を他地域での取り組みを参考にしながら考えることができる。

[社会的な思考・判断・表現]

- 中国・四国地方の地域的特色を、人口や都市・村落を中核とした考察をもとに、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現することができる。
- 都市と農村の変化を、自然環境や人々の生活、産業などに関連付けながら考察することができる。

[資料活用の技能]

- 中国・四国地方の地域的特色に関する地図や様々な資料を収集し、それらから自分に必要な情報を選択することができる。
- 収集した資料から調査・追究に必要な情報を選択し、それを読み取ったり、図表にまとめたりすることができる。

[社会的事象についての知識・理解]

- 中国・四国地方の自然環境や人口、産業などの特色について、おおまかにとらえることができる。
- 人口や都市・村落を中核とした考察をもとに、中国・四国地方の地域的特色を理解することができる。

5 指導計画（5時間扱い・・・本時7／8）

- (1) 中国・四国地方の生活の舞台・・・1時間
- (2) 中国・四国地方の人々の営み・・・1時間
- (3) 都市の役割とその課題・・・1時間
- (4) 高齢化が進む農村と町おこし・・・4時間（本時4／4）
- (5) 交通網の発達による地域の変化・・・1時間

<評価について>

| 学習内容 | 学習目標 | 評価規準 |
|----------------|--|--------------------------------|
| 中国・四国地方の生活の舞台 | <ul style="list-style-type: none"> 山陰、瀬戸内、南四国の自然環境の特色について理解する。 瀬戸内の土地利用について理解する。 | 気候の違いを地図や雨温図から読みとれているか。 |
| 中国・四国地方の人々の営み | <ul style="list-style-type: none"> 人口と発展している諸産業の地域的な違いについて、自然環境等と関連付けておおまかにとらえる。 | 工業、農業、漁業がさかんな地域とその理由を把握できているか。 |
| 都市の役割とその課題 | <ul style="list-style-type: none"> 広島市の特色とその働きを理解する。 都市が抱える過密問題とその対策について考察する。 | 広島市の特色をとらえ、過密地域が抱える問題を考えられたか。 |
| 高齢化が進む農村と町おこし | <ul style="list-style-type: none"> 過疎地域が抱える問題とその対策について考察する。 町(村)おこし等、人々の努力を知る。 | 過疎地域が抱える問題と対策について自分なりの考えを持てたか。 |
| 交通網の発展による地域の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 交通網の発展による地域への影響について知る。 中国・四国地方の特色をとらえる。 | 交通網の発展がもたらす利点と問題点について、考えられたか。 |

6 本時の指導

(1) 本時の内容 中国・四国地方 ～高齢化の進む農村と町おこし～

(2) 本時の目標

- 過疎化地域が抱える諸課題とその対応策について考えをまとめ、それを他者にわかりやすく伝えることができる。
- 過疎地域における様々な町(村)おこしの取り組みを知るとともに、そこに生きる人々の思いを想像することができる。

(3) 本時の展開

| 時配 | 学習内容と活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|-------------|--|--|---------------|
| 導入 (5分) | <ul style="list-style-type: none"> ○人口の少ない地域はどのあたりか予想し、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・海に面していない、内陸部に多い ・新幹線や高速道路等、交通網が整備されていない地域 ・瀬戸内海などに浮かぶ小さな島々 | <ul style="list-style-type: none"> ○これまでに学習した過疎・過密地域の地域的特色について想起させる。 ○人口分布図と地図とを比較させ、人口の少ない地域がどこに分布しているか、読み取らせる。 | 発表① |
| 展開 (40分) | <p>○本日の学習内容について、確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>過疎地域では、それぞれどのような努力をしているか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○過疎地域に悩む5つの地域の概要とその対策について、グループごとに発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 【5つの地域】 <ul style="list-style-type: none"> ・中国地方の日本海側 ・中国地方の山間部 ・瀬戸内地方の離島 ・四国地方の山間部 ・四国地方の太平洋側 【対応策例】 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境のよさをもっとアピールして観光客を増やす ・農産物やこの地域の目玉となるものを探る ・特産物についてブランド化をはかる ・高速道路や鉄道など、交通網の整備をはかる ○各班の発表を聞いて、質問や意見を発表し合う。 ○さまざまな課題に直面しながらも、人々が過疎地域に住み続ける理由について班で話し合い、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由 ・都市が抱える諸課題 ・地域（人）のつながり 等 ○問題解消に向け、過疎地域で取り組まれている具体例を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町の取り組み ・境港市のマンガキャラクターを活用した取り組み ・禰原町の棚田での稲作オーナー制度等 | <ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの市町村について、地域的特色に触れながら過疎対策への取り組みを発表させる。その際、グループ内で考えた対応策についても触れさせる。 ○時間によっては、2～3つの班に発表させる。 ○発表する際、調査した各市町村のどこに視点（観光・産業・交通等）を当てたのか明確にさせる。 ○発表を聞く側は、疑問に思う点や発表に対する意見などをノートにメモをとるよう助言する。 ○出された意見が実現可能なものであるか、さらにより方法がないか、考えさせる。 ○過疎問題は、中国・四国地方だけでなく、全国各地でも見られることを再確認する。 ○予想される個々の考えについて、自由にワークシートに記入させる。 ○それぞれの地域の取り組みについては深入りせず、写真等を見せながら、おおまかな内容を確認するにとどめる。 ○これ以外にも知っている事例があれば発表させる。 | 発表② |
| まとめ (5分) | <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習を振り返り、考えたことや感じたことをまとめ、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○時間がない場合は、ワークシートへの記入にとどめる。 | 発表③ |
| | | | 発表④ ワークシート |

(4) 評価

- ・過疎化地域が抱える諸課題とその対応策について考えをまとめ、それを他者にわかりやすく伝えることができたか。
- ・過疎地域における様々な町（村）おこしの取り組みを知るとともに、そこに生きる人々の思いを想像することができたか。